

学校評価アンケートについて

<1 児童アンケートの結果から>

質問2、5から、先生たちが私たちのことをよく見ているという安心から、幸いにして嫌なことがなく、楽しく生活していることが分かる。

質問6、上記のことを受けて、子どもたちの目にも、先生方が学習方法を工夫して指導してくれていることを理解している。

子どもなりに、地域への気配り、心配りが分かり、心地がよい。

コロナ禍により、読書や家庭学習に取り組む児童が増えたのかと思っていたが、逆に生活や時間がルーズになり、勉強の内容が分からない、学校に楽しく通えない児童が一割いることが驚いた。いじめに関しては、受け取る側と、している側にギャップがあり、大体そう思う30.4%から見ても、自覚のないものが考えられると思う。

<2 保護者アンケートの結果から>

質問5、6から、保護者は学校生活の中での我が子の実際の姿を見て、学校評価をしてほしいと思う。来校する機会が少なかった、行きたかったが結果に表れています。学校だより、メール配信の工夫を十分に理解されている。

質問14、19のオンライン・タブレット学習の展開により、保護者が家庭学習として、どうフォローしていけばよいのか?という方策に迷いがある。先生方と保護者との今後のさらなる連携のあり方が課題である。

学校の勉強を理解できていないが、家庭学習も出来ていない、足りていないためと自覚のある保護者が多いように思う。生活リズムや言葉遣いが出来ていないことを自覚しつつも、家庭内だけで指導したり、正していくことも困難であったり、放課後の行動や学校での様子を把握していない保護者が多いと思う。

<その他>

今年度も学校だよりをはじめとして、教育活動の案内をいただき、その都度参観させていただいた。その度に、先生方、子どもたちからの挨拶励行に感心させられた。「移動図書館 そよかぜ号」や「おはなしたまご」は、今後の読書活動に大きな力となるでしょう。今後は、先生方の働き方改革に、さらにメスを入れて、健康な先生方の集団が子どもたちの指導に当たられることを願っている。

勉強にしても、いじめの問題にしても、相談する相手、先生との時間が必要だと思う。児童は、担任の先生に何かを伝えに行くにも、クラスの子の目をかいくぐり、伝えに行くのは大変だと思うので、月1回、学期末に1回でもよいので、通知票を渡す時のように、先生と児童の1体1で話せる時間があれば、より一層先生との距離も縮まり、学校側も勉強、苦手なこと、家庭生活を把握出来るのではないと思う。

